

 NCJTA NEWSLETTER  
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association  
<http://www.ncjta.org/>  
第34号・2011年 2月発行

北加日本語教師会 2011年の春の例会  
併催 第7回日本語実用言語学国際学会

影山太郎 (国立国語研究所) 基調講演  
柴谷方良 (ライス大学) ・迫田久美子 (広島大学) 特別講義  
畑佐一味 (パデュー大学) 招待講演

March 5 & 6, 2011  
San Francisco State University



会長の挨拶  
春の例会と今後の教師会活動に向けて

南 雅彦

新年おめでとうございます。北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様は、新年、そして新学期をどのようにお迎えになりましたか。今春もさまざまなイベントを通して、NCJTA のさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。皆様ご存知のように、NCJTA 秋の例会は、外国語教育全般を対象とした教師会である *Foreign Language Association of Northern California* (略称 FLANC) と合流していますが、春の例会は、サンフランシスコ州立大学では隔年で開催されている *International Conference on Practical Linguistics of Japanese* (ICPLJ: 日本語実用言語学国際学会) と合流し、その一部として開催されてまいりました。今回、ICPLJ が3月5日 (土) 6日 (日) に開催されますので、NCJTA 春の例会は併催で両日となります。

これこそまさに正真正銘ビッグニュースなのですが、ICPLJ では、影山太郎先生に基調講演 (3月5日) を、柴谷方良先生に特別講義 (3月6日) をお願いしています。影山先生は、関西学院大学名誉教授、国立国語研究所所長、「日本語学会」現会長です。柴谷先生は、神戸大学名誉教授、「日本語学会」元会長で、現在はテキサス州ヒューストンのライス大学 (Rice University) で教鞭をとっていらっしゃる言語類型論の権威です。ICPLJ は、これまでアメリカにおける日本語教育関係でもっとも多くの会員数を誇る *Association of Teachers of Japanese* (ATJ) の歴代会長に講演をお願いしてまいりましたが、今回は、日本国内における言語学に関する諸学会のうち、もっとも古く、そしてもっとも多くの会員数を誇る「日本語学会」の元会長と現会長に講演をしていただくわけです。ちなみに、「日本語学会」の初代会長は『広辞苑』の編纂・著者である新村出先生でしたし、二代目会長は民俗学者で、アイヌ語の研究で知られる金田一京助先生でした (卑近なお話をしますと、横溝正史の推理小説に登場する名探偵・金田一耕助の名は、金田一京助の名が元になっているそうです)。こうしたためたにない機会を NCJTA 会員が享受できるのですから、本当にすばらしいことではないでしょうか。

皆様の中にはご記憶の方がいらっしゃるかも知れませんが、柴谷先生には過去に基調講演をしていただきました（ICPLJ2）。柴谷先生の特別講義は、広島大学教授で『日本語教育に生かす第二言語習得研究』（アルク）といった著書でも知られる迫田久美子先生（ICPLJ3）との共同講義になる予定です。他にも前アリゾナ大学（Arizona University）教授で、現在は国立国語研究所の教授を務められているティモシー・バンス（Timothy J. Vance）先生、学術専門誌“Japanese Linguistics”主幹でオハイオ州立大学教授の中山峰治先生もいらっしゃいます（ちなみに、“Japanese Linguistics”は柴谷先生が1970年代初頭に創刊された学術誌です）。バンス先生、中山先生にも、過去にそれぞれ基調講演（ICPLJ4）、特別講義（ICPLJ5）をしていただきましたが、今回は一般発表者としてのご参加です。こうしたレベルの高さからもNCJTA会員の皆様には、十二分に満喫していただける内容になっています。

さらに、ミドルベリー日本語学校校長でパデュー大学（Purdue University）教授、そして日本語教科書『なかま』（Houghton Mifflin）の著者の一人でもある畑佐一味先生がいらっしゃいます。ちなみに、パデュー大学は根岸英一先生が2010年ノーベル化学賞を受賞されたので、皆様ご存知だと思います。ミドルベリー日本語学校が、今年度からイーストベイ（East Bay）のミルズ・カレッジ（Mills College）で開催されますので、畑佐先生にはそのお話をしていただくようお願いしています。

日米第一線の言語学者・日本語教育関係者がこれほどまでに一堂に会する機会は、めったにありません。ICPLJ、過去13年の歴史を振り返ってみても、これほどの顔ぶれがそろうのは、1998年にハーバード大学の久野暉先生、プリンストン大学の牧野成一先生が基調講演をされた第1回の三島登志子先生記念学会以来でしょう。私は、この豪華な講師陣をそろえるため、過去、半年以上にわたり、鋭意努力してまいりました。昨年6月には、東京立川の国立国語研究所を訪問し、影山先生に直接お会いし、ご講演を依頼しました。畑佐先生とは、昨年9月にシカゴで、11月にボストンでお会いし、交渉を続けてまいりました。畑佐先生は「校長職は企画屋なので、仕掛けて面白いだろうと思うことをやってみる」といったことを以前、ある対談でおっしゃっていました。同様に、私も教えることを生業とし、「生きた言葉の核心に迫る」ことが中心課題で発達心理言語学・社会言語学調査に従事してはいますが、そうした研究活動と同時に、ICPLJばかりでなく、後述する

NCJTAの例会、日本語能力試験など、企画（プロジェクト）のプロを自負してきました。ですから、過去、半年以上にわたり全身全霊を傾けてきた今回のICPLJプロジェクトをNCJTA会員の皆様にもご享受いただきたいと存じます。ぜひ、ぜひ、ぜひ、この機会を逃さず、ご参加いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ここで、NCJTA 昨秋の活動報告をさせていただきます。NCJTA は、前述しました FLANC と連携していますが11月6日（土）に FLANC の年次発表会が Berkeley City College（BCC）で開催されました。BCC での秋の例会開催は、FLANC が1952年に UC Berkeley で発足以来初めてだったのですが、教室から大講堂にいたるまで、すべてがコンパクトに、そして最新設備が機能的にまとまった今日のコミュニティーカレッジに感嘆しました。

FLANC 年次発表会に伴い、NCJTA 秋の例会も BCC で開催されました。例会では、2009年5月『第62回カンヌ国際映画祭マルシェ』で上映され、昨年5月と8月にバイエリアでも公開された映画『The Harimaya Bridge はりまや橋』を昼食時間に上映、鑑賞しました。同映画は、UC Berkeley 卒業後、1990年代前半に JET プログラムに参加され高知県で生活された経験を持つアフリカ系アメリカ人映像作家、アロン・ウルフオーク（Aaron Woolfolk）氏の監督・制作によるものです。どんな人の心にもある誤解、偏見、憎しみ、そして愛を描き、国境という「橋」を越えた映画で、皆様には満足していただけたと思います。その後、同映画の監督のアロン・ウルフオーク（Aaron Woolfolk）氏から、高知県での私生活を含めていろいろなお話を伺いました。

12月5日（日）は、習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test：略称 JLPT）』が SFSU で実施され、NCJTA 会員の先生方にも試験監督としてご協力いただきました。SFSU での JLPT 受験者数は年々増加し、今回は599名が受験登録、498名が受験しています。この受験者数は全米11カ所ある試験会場の中でもロスアンゼルスに次ぐ屈指の規模です。日本語能力試験は、今回から新試験形式を採用し、従来の4レベルから5レベル、N1（Advanced）、N2・N3（Intermediate）、N4・N5（Beginner）となりました。これは従来の3級と2級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、従来の2級をN2とN3に分割することで、2級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーショ



ンをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。試験科目は、これまで同様「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」に大別できますが、最も難易度の高いN1と、その次に難易度の高いN2では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目になるというような変更点もありました。NCJTAの会員、皆様のご協力に心から感謝しています。

私がNCJTAの会長に就任し、さらにNCJTAが法人格を得てCEOに就任以来、常に強調してまいりましたのは、どのような団体も完全無欠の状態ではないし、たとえ、どんなにその完成度が高くても、団体というものは静止状態でもないということです。いつもどこかを修正、微調整する必要が生じます。上述のように、NCJTAはFLANCと連携していますが、スペイン語、フランス語、中国語など他の言語の中で、日本語の個性を埋没させてしまうのではなく、日本語の存在を主張することは重要でしょう。しかし、それだけでは限界があります。なぜなら、NCJTAもFLANCも地域限定の教師会だからです。NCJTAが提携・所属しているFLANCは州レベルのCalifornia Language Teachers' Association (CLTA)と連携しています。今後は、よりいっそう広い視点から「日本語教師会にとって、何が大切なのか?」といったもっと根源的な問題を考えていきたいと考えています。具体的には、全国レベルの教師会との連携・提携を考えています。これが今後の課題、そして私の視界の先にあるものです。

NCJTA会員の皆様からは年会費をいただいているわけですから「情報を提供する」「日本語を教室で教える際のアイデアを提供する」「研究の場、発表の場を提供する」など、企画のプロとして、さまざまな創意工夫をしてきました。昨年度は、NCJTA役員の皆様のご協力のおかげで、春の例会をジャパントウンのNew Peopleで開催できましたし、秋の例会では映画『はりまや橋』の鑑賞など、年会費に見合った差別化もできました。昨年単年で見れば、こうした企画でかなりの赤字に陥ってはいます。それでもNCJTA会員の皆様には、ご満足いただけてはいないのかもしれませんが。こうした現状を打破するためにも、全国レベルの教師会との連携が必要であることは自明ですし、そこに、企画のプロとしての私の次の目標があることも明らかです。私は、これまでNCJTA非営利・非課税法人化などを手がけてまいりましたが、ここからは未知の航路となります。皆様、ご理解のほどご協力よろしくお願ひ申し上げます。

## NCJTA 秋の例会報告

北加日本語教師会秋の例会 Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA) Fall Meeting は、11月6日(日)3時から3時45分まで、Berkeley City CollegeのAuditoriumで行われた。今回は、2009年5月『第62回カンヌ国際映画祭マルシェ』で上映され、去る5月と8月にバイエリアでも公開された映画『The Harimaya Bridge はりまや橋』の監督アロン・ウルフオーク(Aaron Woolfolk)氏をお招きして、お話を伺った。なお、講演前(午後1時~3時)に、『The Harimaya Bridge はりまや橋』を鑑賞した。講演前には、総領事館の高橋さんより、11月7日のスピーチコンテスト、そしてJET Programの締め切りについてのお知らせ、また、南先生からは、12月5日にSFSUで行われる日本語能力試験(Japanese Language Proficiency Test)の実施に関して試験監督募集のお知らせがあった。

『The Harimaya Bridge はりまや橋』はアロン・ウルフオーク氏が脚本、監督を手掛けた長編映画デビュー作で、アフリカ系アメリカ人の監督が日本で撮影した作品としては初めてである。ウルフオーク氏は、UC Berkeleyを卒業後JETプログラムに参加し、日本の高知県に四季を通じて暮らした経験を持つ。日本の美しさや人間の温かさを描き、国境を越える家族、自己発見の物語を情緒豊かに表現した『はりまや橋』は、日本とアメリカという異文化をつなぐ「橋」ばかりでなく、ひとりひとりの心に架かる「橋」を描いた作品である。

ここで、あらすじを述べよう。サンフランシスコで暮らす写真家のダニエル・ホルダー(ベン・ギロリ)の一人息子ミッキー(ヴィクター・グラント)は、ダニエルが反対するのにもかかわらず、アメリカを飛び出し、日本の高知県のとある町に英語教師として赴任し、画家としての才能をも発揮していた。しかし、1年も経たずにミッキーは交通事故に遭い命を落としてしまう。太平洋戦争で自らの父を失ったダニエルは、息子までも日本で命を失い、日本への抑えきれない嫌悪感と偏見を抱えながら、息子が遺した絵をかき集めるために一人日本を訪れた。そこで高知の人々に愛されていた息子の生活を目の当たりにし、動揺し始める。そんなある日、訪れた中学校で、息子の教え子であった知的障害を持つ少女からプレゼントされた絵によって、ミッキーが同僚の紀子と結婚していたこと、そして、ふたりの間に

子供が生まれていたことを知る。ダニエルの憎悪はいつしか、息子の愛した日本、人々をいつくしむ気持ちと変わっていった。（『はりまや橋』の映画オフィシャルサイトのあらすじの一部引用）

アーロン・ウルフォーク氏の講演内容は以下の通りである。ウルフォーク氏は、カリフォルニア州オークランド市に生まれ、3歳の時、鈴木式バイオリンの創始者鈴木鎮一の膝に乗った記憶があり、それが日本との初めての出会いであったという。また、小学校3年生の担任の先生が日系人で、日本文化を教えてもらったが、日本に興味を持ち始めたのは、黒澤、溝口、小津監督らの国境を超えたユニバーサルな人間のありかたを描いた映画作品に出会ってからだだったそうだ。日本へ行くことになったのは、UC BerkeleyでEthnic Studiesを専攻していたウルフォーク氏が4年生の時、JETプログラムの説明会に行く友だちとばったり出会い、たまたま申し込んだところ受かってしまうという偶然からであった。ウルフォーク氏本人は、最初日本へ行くことに少々躊躇していたそうだが、両親に勧められ、1992年に高知で英語を教えることになった。都会育ちのウルフォーク氏が、高知の田舎のゆっくりとした時間の流れを愛するようになったという。また、ウルフォーク氏は、高知の人々にとって初めて接するアフリカ系アメリカ人だったので、ちょっとした有名人となり、高知の人々に大変良くしてもらったという。その反面、いつもバスケットボールやダンスが上手だろうというアフリカ系アメリカ人に対するステレオタイプの見方に何度も遭遇したそうである。最初は3年間滞在するつもりだったが、コロンビア大学の修士プログラムに入るため、1年で高知を去ることとなった。当時の気持ちを“I felt that my experience in Kochi was incomplete”と表現し、1993年以降、毎年高知に帰り、高知はウルフォーク氏にとって2番目の故郷となったという。ウルフォーク氏は、コロンビア大学大学院芸術学科映画プログラムで2つの短編映画作品を作った後、もっと長編の映画を作ろうと決心し、『はりまや橋』の製作を始めた。

ウルフォーク氏によれば、『はりまや橋』では、アメリカ人のやり方が必ずしも正しいというのではなく、失敗から学んでいくアプローチを採ったという。ダニエルはただ、息子の絵が取り戻したいという動機で日本に行ったため、日本の習慣・慣習を無視し傲慢な態度を取り続けるが、最終的にそのような自分の態度を反省し、日本文化や人々を尊敬していくのである。キャスト・スタッフも日本人を多く起用し、自主製作映画（independent film）として、でき

るだけ、誰もが感情移入できる身近な家族のストーリーを描き、普遍性のあるメッセージを発したかったという。製作にあたって、ウルフォーク氏自身は日本語や文化のエキスパートではないので、できるだけ多くの関係者の方々の意見を聞き、参考にさせてもらったり、また、俳優さん達からも自分のアプローチに自由に意見を述べてもらったりしたという。この映画は、そうした多くの人々の協力の上に完成したものだと言うべきだろう。また、映画には戦争、部落民、人種問題などの諸テーマを取り入れたが、これらを悲観的に捉えるよりも、キャラクターの生き方を通し、こういった社会の多様性を理解、感謝して行くストーリー展開にしたということだった。こういったテーマを投入することに、多くの人は当初は驚いたが、観客の感性・知性を信頼し、そのように決断したそうだ。ウルフォーク氏は、「自分は日本のエキスパートではないが、日本人が見落とししてしまいそうなところを、自分のユニークな観点から、映画を作り続けたいと思う」と言って話を終えた。

Note: はりまや橋は高知市内にある橋で、「土佐の高知のはりまや橋で、坊さん、かんざし買うを見た」は、よさこい節で歌われている。これは、竹林寺の僧・純信が恋人であるいかけ屋・お馬のために髪飾りを買ったという悲恋物語の一節である。現在のはりまや橋は、江戸時代の橋を再現したものである。

文責 増山

## 2011年 春の役員会報告 北加日本語教師会役員会

日時：1月23日（日）午後12時00分より午後2時半まで

場所：4406 Dwinelle Hall, UC Berkeley

主席者： ゲスト 久保井亮一先生（大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長）、 Grant 文子先生・猪俣公克先生（サンフランシスコ市立大学）、加藤寿美専門調査員（総領事館）、役員（名簿順）南、斎藤、栗岡、森岡、シアース、神原

1. 大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長の久保井先生より、文部科学省が行なう「日本留学試験」と大阪大学の「Global-30: Osaka University: Chemistry-Biology Combined Major Program (All in English)」の説明を受けた。

## 会計からのお知らせ

2. 総領事館広報センター加藤専門調査員より以下の報告、通知を受けた。(詳細は、後述の「大阪大学からのお知らせ」をご参照ください。)

- 1) 弁論大会：2010年11月7日に行なわれた。総勢38名の参加で非常に高レベルのものであった。
- 2) 第39回小学生の日本語お話大会開：2011年3月6日に開催予定。申込締切は2月15日。
- 3) 新しいマンガ形式の教材を使う「咸臨丸」ワークショップ：2011年2月15日(7時～8時半)
- 4) 2011年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生募集 教員研修留学生募集。申込締切は3月15日。
- 5) 2011年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生募集 日本語・日本文化研修留学生募集。申込締切は3月15日。

3. 会長より報告、提案。

- 1) 2010年11月8日、秋の例会は参加者約30名。FLANCから総額700ドルの補助を受け、北加日本語教師会負担額(750ドル)に収まった。
- 2) 日本語能力試験は599名申し込み、498名が実際に受験。
- 3) NPO報告義務についての報告
- 4) 春の例会は3月5日(土)6日(日)9時～5時で開催予定の第7回『日本語実用言語学国際学会』と共催。北加日本語教師会会員は2月18日までに登録すれば割引料金となり、1日のみ参加が20ドル。2日とも参加30ドルを提案、役員の下承を得た。
- 5) 今回、すべての役員が任期満了となるため、ニューズレターで立候補者を募ることを提案、役員の同意を得た。

4. 会計より報告。

北加日本語教師会ウェブ広告料として、北加ジャパン・ソサイエティ(日本協会)とIACEから100ドルずつ寄付があった。



文責 神原

NCJTAの会費は一般15ドル、学生5ドルです。2011年度分の会費(2011年4月から2012年3月まで有効)を年会費納入用紙といっしょに送ってくださるか、春の例会でお支払いいただければと思います。昨年までの会費を払っていらっしゃらない方も今年のみで結構です。皆様のご協力をお願いいたします。なお、3月中にお支払いいただいた方には、Kinokuniya SF店の5ドルのクーポンを差し上げます。

NCJTAは2007年に非営利団体(non profit organization)になりました。それで、寄付を受けることができるようになりました。現在Japan Society of Northern California、IACE Travel、大阪大学からNCJTAのウェブサイトの広告一つ分100ドルの寄付をいただいています。皆様の中で広告を出して下さりそうな方をご存知の方はぜひ齋藤までご連絡ください。

会計 齋藤



## ワークショップ・イベントのお知らせ

- Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA) Spring Meeting  
北加日本語教師会春の例会
  - 日時：3月5日(土)午後1時15分～2時15分(3月6日の同時時間帯を予備日としてあります)
  - 春の例会は、*Seventh International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ7)*の一部として、併催いたします。Registration Formはニューズレターの最後に添付してあります。Advance Registrationは、2月18日締め切りです。詳細は、以下のウェブサイトをごらんください。
    - <http://online.sfsu.edu/~icplj/conference/>
    - <http://www.ncjta.org/Home.html>
    - 場所：San Francisco State University, College of Humanities, Room (HUM 115 予定)

- ▶ 主な講演者一覧：
- ◇ 3月5日（土）に基調講演をお願いしている影山太郎先生は、関西学院大学教授を経て、現在、国立国語研究所の所長をされています。日本言語学会会長（2009年～現在）も務められています。主要著書に『ケジメのない日本語』（岩波書店 2002 もっと知りたい!日本語シリーズ）などがあり、日本語と英語の比較の上で語彙の形成を主として研究されています。
  - ◇ 3月6日（日）に迫田久美子先生と一緒に1時間半の特別講義をお願いしている柴谷方良先生は、神戸大学名誉教授で、現在、テキサス州ヒューストンのライス大学で教授をされています。日本言語学会会長（1997～2000）顧問（2000～現在）。Oxford University Press Syntax Survey Series 編集顧問（2001～現在）、台湾中央研究院語言學研究所運営委員（2007～現在）などを歴任されています。『日本語の分析』（大修館）、『言語の構造』（くろしお出版 共著）、「Languages of Japan」（Cambridge University Press）、「Grammatical Constructions: Form and Function」（Oxford University Press 共著）、「Current Issues in the History and Structure of Japanese」（Kurosio Publishers 共著）など著書多数です。
  - ◇ 迫田久美子先生は、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座教授で、国立国語研究所の客員教授（理論・構造研究系/日本語教育研究）です。著書には『日本語教育に生かす第二言語習得研究』（2002年アルク）などがあります。
  - ◇ ティモシー・バンス（Timothy J. Vance）先生は、音韻論の権威で、近著に“The Sounds of Japanese”（2008年 Cambridge University Press）があります。バンス先生は前アリゾナ大学（Arizona University）教授で、現在は国立国語研究所教授（理論・構造研究系）を務められています。ちなみに、バンス先生には第4回 ICPLJ の基調講演者として、過去にご講演していただいたことがあります。
  - ◇ 中山峰治先生は、オハイオ州立大学教授で専門誌“Japanese Linguistics”主幹も務められています。中山先生には第5回 ICPLJ で特別講義をご担当いただいたことがあります。近著には、静岡県立大学教授の吉村紀子先生との共著『海外短期英語研修と第2言語習得』（2010年 シリーズ言語学と言語教育 ひつじ書房）があります。ちなみに、吉村紀子先生にも本学会での一般講演をお願いしています。
  - ◇ 畑佐一味先生は、パデュー大学（Purdue University）教授、そして日本語教科書『なかま』の著者のお一人です。畑佐先生は、ミドルベリー日本語学校校長も務めていらっしゃいますが、ミドルベリー日本語学校が今年度よりイーストベイ（East Bay）のミルズ・カレッジ（Mills College）で開催されますので、ご興味のある方は、3月5日午後1時15分からの北加春の例会での畑佐先生のご講演をお聴きください。
- 小学生日本語お話大会
    - ▶ 「小学生日本語お話大会」を3月6日（日）に在サンフランシスコ日本総領事館にて開催いたします。在サンフランシスコ日本国総領事館インフォメーションセンターからのお知らせも併せてごらんください。

**在サンフランシスコ日本国総領事館  
インフォメーションセンター  
からのお知らせ**

**1. 咸臨丸ワークショップのご案内**

2010年の咸臨丸サンフランシスコ来航150周年を記念し、教員の方を対象としたワークショップを下記の通り開催いたします。このワークショップでは、スタンフォード大学国際異文化教育プログラム（Stanford Program on International and Cross-Cultural Education：略称 SPICE）と在サンフランシスコ日本国総領事館が共同製作したマンガ形式教材を使用します。

タイトル：“Early Encounters Between the United States and Japan”

- 日時：2011年2月15日（火）
- 会場：18:30
- 開会：19:00
- レセプション：20:30
- 場所：在サンフランシスコ日本国総領事館広報センター（50 Fremont St. Suite 2200 San Francisco CA 94105）
- 主催：在サンフランシスコ日本国総領事館、スタンフォード大学国際異文化教育プログラム（SPICE）、北カリフォルニアJETアラムナイ・アソシエーション（JETAANC）
- プログラム：
  - Peter Duus スタンフォード大学名誉教授による講演：*The Japanese Discovery of America*
  - Frederik Schodt 氏による講演：
    - ❖ *Native American in the Land of the Shogun: Ranald MacDonald and the Opening of Japan*
    - Gary Mukai SPICE 所長による講演：
      - ❖ *Early Encounters: The First Japanese Embassy to the United States, 1860*
  - レセプション
    - ❖ 席に限りがあるため、事前登録をお願いいたします。
    - 連絡先：スティーブ・ゴールドマン
      - ❖ E-mail: [infoav@cgjsf.org](mailto:infoav@cgjsf.org)
    - ❖ 参加者の方には、会場にて上記教材を無料で配布します。

2. 「第 39 回小学生日本語お話大会」開催のお知らせ

「小学生日本語お話大会」を3月6日（日）に在サンフランシスコ日本国総領事館にて開催いたします。総領事館および北加日米会は、下記の要領にて標記

「小学生日本語お話大会」を開催いたします。

- 開催日時：2011年3月6日（日）午後1:00～午後4:30
- 開催場所：在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105  
（注意：会場の座席数は限られており、立ち見席となる可能性があります。ご了承くださいませようをお願い申し上げます。）
- 参加資格：
  - ❖ 現在現地の小学校に通学している生徒
  - ❖ 3才以後3ヶ月以上日本に継続滞在経験のない小学生

- ❖ 学校での外国語としての日本語学習合計時間が1週間に5時間以下の小学生
- ❖ 過去本大会において1等に入賞した児童は、同じグループでは参加出来ません。
- 部門：参加児童は、以下の通り、学年別にグループ A 及びグループ B に分けられ、さらに日本語を家庭で話す部門及び家庭で日本語を話さない部門に分けられます。
  - ◇ グループ A:1～3年生
    - 第1部門：家庭で日本語を話さない児童（10名まで）（参加者生徒の家族に日本語を理解する者がいない）
    - 第2部門：家庭で日本語を話す児童（10名まで）（参加者生徒の家族に日本語を理解する者、又は話者がいる）
  - ◇ グループ B: 4年生以上
    - 第3部門：家庭で日本語を話さない児童（10名まで）（参加者生徒の家族に日本語を理解する者がいない）
    - 第4部門：家庭で日本語を話す児童（10名まで）（参加者生徒の家族に日本語を理解する者、又は話者がいる）
- スピーチのトピック及び長さ：自由、長さは2分以内とする。
- 採点基準：内容、発音、プレゼンテーション＝暗記、表現力、話し方
- 参加申し込み方法：各学校から各部門に1名（および補欠2名）応募することができます。
  - ❖ 参加申込書は、学校からの提出とし、個人生徒の参加申込書は受け付けません。
  - ❖ 受け付けは先着順に各部門10名までとし、10名に満たない場合には、日本語履修者数の多い学校から順に補欠者を繰り上げます。なお、4カテゴリーの総参加者数は40名までとし、10名に満たないカテゴリーが生じた場合には、他のカテゴリーの参加者数が10名以上となる可能性があり、参加者数40名に達するまで補欠の繰り上げ参加をいたします。
  - ❖ 参加申込書ご希望の方は、Tel: (415) 356-2461 あるいはE-mail: [education@cgjsf.org](mailto:education@cgjsf.org) までご連絡下さい。なお、参加申し込み期限は、2011年2月4日（金）午後5時必着です。（FAXのみ受付） 参加申込書は、日本語の先生より御提出願います。

- ❖ 賞品：参加児童全員に参加賞（トロフィー、賞状、ギフト）、入賞児童には、賞状及びスペシャルトロフィーが授与されます。

### 3. 奨学金のお知らせ

- **2011 Japanese Government Scholarship for JAPANESE STUDIES 日本語を学ぼう！ Learn Japanese in Japan! Study at a Japanese university for one year — Tuition, Allowance and Air Tickets Provided! —**

The Japanese government is now offering one-year scholarships in Japan to currently enrolled undergraduate students majoring in Japanese language or Japanese culture.

To apply, applicants must:

- ❖ Hold U.S. citizenship;
- ❖ Be born from April 2, 1981 to April 1, 1993;
- ❖ Be a current undergraduate student majoring in fields related to Japanese language or Japanese culture and have studied in a university for more than one year as of April, 2011;
- ❖ Be enrolled as an undergraduate student outside of Japan at the time that they arrive in and leave Japan;
- ❖ Be able to arrive in Japan within two weeks of the starting day of the study course set by the university (Programs begin in October as a general rule);
- ❖ Must have sufficient Japanese language ability to take classes at Japanese universities in Japanese.
- ❖ For more details, please visit our website: [http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e\\_m05\\_01\\_01.htm](http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e_m05_01_01.htm)
- ❖ Application Deadline: Applications must be received by 5:00 pm on Thursday, March 10, 2011.

A Japanese language examination is required of all applicants, and an interview in English will follow the exam. The language examination will be conducted on **Thursday, March 15, 2011 at the Japan Information Center (detail will be informed upon receipt of your application).**

- **THE 2011 JAPANESE GOVERNMENT SCHOLARSHIP Teacher-Training Students 教員研修留学生 Study at a Japanese University — Tuition, Allowance and Air Tickets Provided! —**

The Japanese government is offering scholarships to Americans who wish to conduct research on school education at Japanese universities.

To apply, applicants must:

- ❖ Hold U.S. citizenship;
- ❖ Be born on or after April 2, 1976;
- ❖ Be a graduate of a university or a teacher-training school and have worked as a teacher of an elementary or secondary educational institution or a teacher-training school in the United States for at least five years in total as of April 1, 2011. (In-service university faculty members are not eligible.);
- ❖ Be willing to learn Japanese and receive research guidance in Japanese.
- ❖ For more details, please visit our website: [http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e\\_m05\\_01\\_03.htm](http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e_m05_01_03.htm)
- ❖ The term is between October 2011 and March 2013, which is the period necessary to complete each university's training course. In addition, scholarship recipients must be able to arrive in Japan within two weeks of the starting date of the study course set by the university (programs begin in October as a general rule).
- ❖ **Application Deadline: Application must be received by 5:00 pm on Thursday, March 10, 2011**
- ❖ All applicants are required to take both an English and Japanese language examination, and an interview will follow the exams. The examinations will be conducted on **Tuesday, March 15, 2011 at the Japan Information Center (detail will be informed upon receipt of your application form).**
- ❖ For more information or to receive an application form, please contact: Japan Information Center, Consulate General of Japan  
attn: Hisako Takahashi  
50 Fremont St., Suite 2200 (22 Fl.),  
San Francisco, CA 94105  
Tel: (415) 356-2461  
E-mail: [education@cgjsf.org](mailto:education@cgjsf.org)

## 大阪大学サンフランシスコ教育研究センターからのお知らせ

Global-30: Osaka University: Chemistry-Biology  
Combined Major Program (All in English) (G-30 大阪  
大学学部英語コース) [http://e-  
apply.jp/shutsugan/c/osaka-u-G30-2011/](http://e-apply.jp/shutsugan/c/osaka-u-G30-2011/)

急速に進展を続ける科学研究のさまざまな課題に対応できる技能を養うと共に、化学と生物学の基礎および相互に融合する分野を同時に学べる新しいコースです。また、大学環境の国際化により国籍を越えたコミュニケーション能力を養い、多文化理解を深めると同時に、学際的研究に必要な基礎知識と研究技能を身につけることを目標としています。

有機化学、無機化学、分析化学、物理化学、生物化学、細胞生物学、分子遺伝学などの専門化学・専門生物学はもちろん、教養課程、基礎科学、基礎数学も英語で教えます。また、留学生には日本語集中プログラムもあり、日本語能力に合ったレベルの日本語コースを受講できます。

コースの特長である少人数制の授業とセミナーにより、最新設備を備えた研究室で充実した実習や世界トップレベルの実験が可能です。世界に通用する研究活動や、英語で実施される多様な実験を通し、豊富な経験が得られる大阪大学大学院理学研究科、大学院工学研究科、そして大学院基礎工学研究科は、この複合メジャーコース修了者に最適で、多くの修了者が進学し研究を続けていくことでしょう。大阪大学は、この相互に融合する学術分野で活躍したい学生を積極的に募集しています。

▶ 担当責任者・連絡先： 久保井亮一  
大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長  
Ryoichi Kuboi, Ph.D, Executive Director, Professor  
Osaka University San Francisco Center for  
Education and Research (OUSFC)  
100 Montgomery St., Suite 1270, San Francisco,  
CA 94104  
[kuboi@osaka-u-sf.org](mailto:kuboi@osaka-u-sf.org), [info@osaka-u-sf.org](mailto:info@osaka-u-sf.org) 415-  
296-8561(OUSFC-office)

### 先生の紹介欄

- 1) お名前を教えてください。  
宮本カルタビアーノ百合子と申します。
- 2) 教えている学校名、町を教えてください。  
カリフォルニア大学バークレー校で教えています。

3) 日本語教師はいつから？  
日本の民間の語学学校で教え始めたのが1995年のことでした。  
それから、海外へ、そしてアメリカに来てからサンマテオにあるアラゴン高校で数年間、そしてカリフォルニア大学デービス校の大学院在学中はTAとして少し教えさせていただきました。

4) ご趣味は？  
最近、テニス鑑賞でしょうか。テニスの4大国際大会の時期になると夢中になって見えています。ロジャー・フェデラーの大ファンです。

5) 日本の出身地は？  
生まれと育ちは東京ですが、今実家は埼玉です。

6) アメリカに来てから何年ですか？  
1999年に来ましたので、12年目になります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。  
日本の言葉と文化を教えるという仕事は本当に楽しいです。  
学生たち、そして他の先生方たちと一緒に日本語について考え、話し合い、笑い、色々な新しい発見があり、日々学びの喜びを感じています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。  
昨年は学会や例会などにあまり参加できませんでした。今年はあるべく参加していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### 編集後記

春学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニューズレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げております。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、神原、栗岡、今瀬までお送りください。

南：[mminami@sfsu.edu](mailto:mminami@sfsu.edu)  
神原：[wkambara@berkeley.edu](mailto:wkambara@berkeley.edu)  
栗岡：[kuriokayufuko@hotmail.com](mailto:kuriokayufuko@hotmail.com)  
今瀬：[hiroimase@yahoo.co.jp](mailto:hiroimase@yahoo.co.jp)



## 北加日本語教師会連絡先

**NCJTA**

*Officers*

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Masahiko Minami

Department of Foreign Languages

サンフランシスコ州立大学

San Francisco State University

1600 Holloway Avenue

San Francisco, CA 94132

(415) 338-7451

<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO (FLANC 連絡員兼任) :

Masahiko Minami 南雅彦 (同上)

E-mail: [mminami@sfsu.edu](mailto:mminami@sfsu.edu)

副会長 : Kazue Masuyama 増山和恵

California State University, Sacramento

E-mail: [kmasuyama@csus.edu](mailto:kmasuyama@csus.edu)

会計 : Mayumi Saito 斎藤真由美

University of California, Davis

E-mail: [msaito@ucdavis.edu](mailto:msaito@ucdavis.edu)

ニュースレター編集委員 :

Yufuko Kurioka 栗岡由布子

Institute of Buddhist Studies

E-mail: [kuriokayufuko@hotmail.com](mailto:kuriokayufuko@hotmail.com)

<各レベル代表>

小学校 :

Taeko Morioka 森岡妙子

Rosa Parks JBBP Elementary School

E-mail: [Taeko3568@aol.com](mailto:Taeko3568@aol.com)

中学校 :

Hiroshi Imase 今瀬博

Odyssey School

E-mail: [hiroimase@yahoo.co.jp](mailto:hiroimase@yahoo.co.jp)

コミュニティーカレッジ代表 :

Tazumi Searce シアース多都美

De Anza College, Mission College

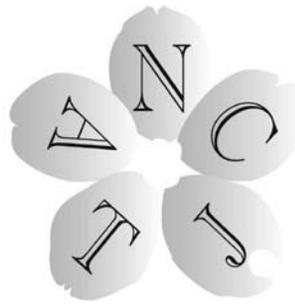
E-mail: [tazumi@comcast.net](mailto:tazumi@comcast.net)

大学代表 :

Wakae Kambara 神原若枝

University of California, Berkeley

E-mail: [wkambara@berkeley.edu](mailto:wkambara@berkeley.edu)



Northern California Japanese Teachers' Association



# 北加日本語教師会

<http://www.ncjta.org/Home.html>

## 会費納入/新会員登録用紙

前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納入分はご請求いたしませんので、是非とも今年度分からお支払いいただけますよう、切にお願い申し上げます。

年会費  
一般\$15、学生\$5

Check payable to: NCJTA  
Mail to: Mayumi Saito, 2105 Saratoga Place, Davis, CA 95616  
Name: \_\_\_\_\_ Affiliation: \_\_\_\_\_  
School/office Address: \_\_\_\_\_  
Home Address: \_\_\_\_\_  
E-mail: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_  
Phone: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_

.....き.....り.....と.....り.....線.....

## 住所変更/氏名変更等届出用紙

下記のうち該当する変更事項を○で囲み、必要な情報を書き入れてください。変更のない方は、提出していただく必要はありません。

Mail to: Mayumi Saito, 2105 Saratoga Place, Davis, CA 95616

1. 氏名の変更 旧氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

新氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

2. 住所変更/勤務先変更 (新しい情報だけご記入ください。)

Name: \_\_\_\_\_ Affiliation: \_\_\_\_\_  
School/office Address: \_\_\_\_\_  
Home Address: \_\_\_\_\_  
E-mail: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_  
Phone: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_

## 北加日本語教師会・役員立候補届用紙

現在、以下の役職が空席です。立候補されたい役職に○をつけてください。

	会長		副会長
	書記		会計
	ニュースレター編集委員		小学校代表
	中学校代表		高校代表
	コミュニティカレッジ代表		大学代表
	学園代表		

役員に立候補ご希望、もしくはご推薦されたい方はこの用紙にご記入の上、下記住所までご郵送下さい（4月8日必着）。

宛先：           Masahiko Minami  
                   Department of Foreign Languages & Literatures  
                   San Francisco State University  
                   1600 Holloway Avenue  
                   San Francisco, CA 94132

お名前（日本語） \_\_\_\_\_

お名前（英語） \_\_\_\_\_

**Position Statement**（どうして、その役職に就きたいのか、何をしたいのか、簡単・簡略に述べてください）

連絡先：

E-mail：

Tel：

勤務先：

**7th International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ7)  
 March 5-6 (Sat. & Sun.), 2011, San Francisco State University  
 REGISTRATION FORM**

**Please download the form as a PDF or MS Word document or simply print out the form, complete all information, make the proper selections, and mail the form with payment to the address at the bottom of the form. Please note: (1) Advance registration will close February 18, 2011 or when the number of registrations reaches 130; (2) Saturday evening reception will close when the number reaches 70 (due to the capacity limitation).**

<b>Name</b>	<b>First</b>	<b>Middle</b>	<b>Last</b>
<b>Affiliation</b>			
<b>Mailing Address</b>			
<b>Phone No</b>			
<b>Fax No</b>			
<b>E-Mail</b>			

Registration Fees (please mark your choices on the underlines.)

<b>Advance Registration</b>	<b>Student: \$30 (\$20 for one day)</b>	\$ _____
	<b>NCJTA Member: \$30 (\$20 for one day)</b>	\$ _____
	<b>Faculty/Other: \$40 (\$30 for one day)</b>	\$ _____
<b>On-site Registration (after February 18)</b>	<b>Student: \$40 (\$30 for one day)</b>	\$ _____
	<b>NCJTA Member: \$40 (\$30 for one day)</b>	\$ _____
	<b>Faculty/Other: \$50 (\$40 for one day)</b>	\$ _____
<b>Saturday Evening Reception (Close when the number reaches 70)</b>	<b>Please choose:</b> <input type="checkbox"/> Will attend <input type="checkbox"/> Will not attend	
<b>Saturday Lunch \$15</b>	<b>Please choose:</b> <input type="checkbox"/> Will attend <input type="checkbox"/> Will not attend	\$ _____
<b>Sunday Lunch \$15</b>	<b>Please choose:</b> <input type="checkbox"/> Will attend <input type="checkbox"/> Will not attend	\$ _____
<b>Total Amount Enclosed</b>		\$ _____

**Note: Participants from overseas (excluding participants from contiguous America and Hawaii) can pay on site but should register beforehand (by February 18, 2011).**

**Method of Payment: The payment should be by (1) a personal US bank check, or (2) an international money order/bank draft, both payable to:**

**University Corporation, SFSU (ICPLJ), or (3) a credit card (please contact [icplj@sfsu.edu](mailto:icplj@sfsu.edu) for this option).**

お支払い方法：次の3種類から1つお選び頂けます。

- (1) 小切手（米国在住の方）
- (2) 郵便局のマネー・オーダー（日本在住の方）
  - 小切手／マネー・オーダー宛名: University Corporation, SFSU (ICPLJ)
- (3) クレジットカード（支払い方法は、[icplj@sfsu.edu](mailto:icplj@sfsu.edu)までお問い合わせください）

**Please return the registration form and payment to:**

**Dr. Masahiko Minami  
Dept. of Foreign Languages and Literatures  
San Francisco State University  
1600 Holloway Ave.  
San Francisco, CA 94132  
U.S.A.**

- 
- For further information, please send e-mail to:[icplj@sfsu.edu](mailto:icplj@sfsu.edu)
  - [Download the Acrobat reader from the Adobe for FREE](#)